

# Achievement

皆様のご支援で、これだけ成果が挙げられました。ありがとうございました！

©吉野信



## トラ

アジアにのみ生息するトラの生息数は、わずか3500頭前後。一方、世界で68か国、1038の施設で12574頭が飼育されています。この中には中国やベトナム、ラオス、タイなどにある虎骨の強壮剤、漢方薬目的のファームもあります。これらファームのある国はすでに野生のトラは絶滅してしまったり極端に数を減らしたりしています。先月行われたワシントン条約常設委員会でインドはトラファームの閉鎖を強く訴えていました。トラ全個体数の3分の2はインドに生息しています。他の生息国よりはトラの保全が考えられているものの、インドでもまだ十分とはいえません。JTEFは10年間行ってきたナグジラ・ナワゴトラ保護区の保全活動が功を奏し、他国の大きな団体から支援をしてもらえたことになったため、今年度から新しい保護区の支援を始めました。ここでもトラの保全の最初の一步を築き、やがて大きな流れになることを夢見て、頑張っています。

### [2017年度の成果]

- ・住民参加の軋轢対応チームが結成されました。
- ・森林局の最前線森林スタッフにトレーニングワークショップを開催しました。
- ・開発への規制をかけました。
- ・自然ガイドにトレーニングワークショップを開催し、フィールドキットを提供しました。

©戸川幸夫



## ゾウ

ゾウの祖先は、6000万年前に地球上に誕生しました。最初は少し突き出た鼻をもつ小さなブタのような生きもの。その生きものから、ジュゴンやマナティの先祖と分かれて進化し、様々なゾウの仲間が現れる中で、600万年前、現生のゾウ（アフリカゾウ、アジアゾウ）の直接の先祖が登場。このようにゾウは人間よりもずっと長い歴史の中で繁栄してきましたが、とりわけこの百数十年は、人間に棲み処を奪われ、また、象牙を生産する動物として、使役動物として、観光客を喜ばせる動物として商業利用されてきました。ゾウが今後の100年を生き延びるためには、2つのことが必要です。ゾウの生息地に隣り合って住む人たちがゾウの存在を許容できる（共存する）ようにすること。ゾウを商業利用のために殺したり、生息地から奪い去るのをやめること。

### [2017年度の成果]

- ・インドの活動拠点で新しいプロジェクト：アジアゾウや多様な水鳥が訪れるチントン湖の「地域社会保全地域」への指定を求めて、3つの村と共に活動を始めました。
- ・ワシントン条約常設委員会(2017年11月：於ジュネーブ、2018年10月：於ソチ)で、日本の国内象牙市場閉鎖を訴え、関係国からこれに賛同する発言を得、マスメディアでも取り上げられました。
- ・大手小売企業に、象牙のハンコの販売停止をはたらきかけたところ、イトーヨーカドーから、2020年までに象牙製品の販売を停止するという回答が寄せられました。

©JTEF



## イリオモテ ヤマネコ

ヤマネコの交通事故は、2017年は3件でしたが、2018年は既に6件です。人馴れしたヤマネコが道路に出やすくなっていることが懸念されています。「奄美大島、徳之島、沖縄県北部及び西表島」の世界自然遺産登録申請は、今年5月、世界遺産委員会の諮問機関であるIUCN(国際自然保護連合)から、多くの問題点を指摘され、登録延期の勧告を受けました。西表島については、既に大量の観光客による過剰利用が起きており、その対策が求められました。日本政府はこれを受けて6月に申請を取り下げましたが、来年2月には再度申請を出し直す予定です。JTEFは、世界遺産登録後の東京オリンピックに海外客が大挙して押し寄せる前に、西表島で観光利用をコントロールするルールが実施されることが必要です。

### [2017年度の成果]

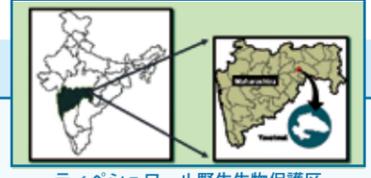
- ・地元住民による交通事故防止夜間パトロールを通年で実施しました。9月にはパトロール中に事故死したヤマネコを発見しました。
- ・西表島の小中学校教員向け研修会を開催し、計13名の先生が参加されました。
- ・IUCN(国際自然保護連合)に、西表島の観光利用の問題点に関する報告書の第2弾を提出。ヤマネコの人馴れ防止措置、観光客の総量規制の必要性を提言しました。
- ・IUCN(国際自然保護連合)による西表島の世界自然遺産登録に関する報告書に、JTEFが提出した報告書の内容が反映されました。



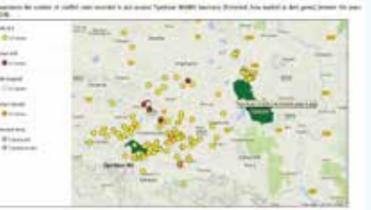
JTEFは、トラ、ゾウ、ヤマネコが生息している自然環境全体を守りたいと考えています。日本にいる私たちも含めて人々に豊かな恵みを与える森は、生物の多様性に満ちた森です。進化し続ける微生物から小さな草花、木の実をつける植物、昆虫、ヘビ、鳥、大きな獣にいたるまで多様な動植物が生きています。トラ、ゾウ、ヤマネコが暮らせることが、豊かな自然環境の象徴なのです。JTEFは、トラ、ゾウ、ヤマネコが生息している自然環境全体を守りたいと考えています。

# トラ保護基金

## 中央インド・トラ保全プロジェクト



ティベシュワール野生生物保護区



(大きい緑はTadobaトラ保護区、小さい緑がティベシュワール野生生物保護区。黄丸は家畜の捕殺、赤丸は人の死亡事故、白丸は家畜の負傷、橙丸は人の負傷事故の発生場所)

### 【トラの森と共存する暮らし向上プロジェクト】

今年度から開始したティベシュワール野生生物保護区でのトラ保全活動は予定通り進んでいます。ここは10年以上JTEFが支援してきたマハラシュトラ州ナグジラ・ナワゴントラ保護区の南にあり、いくつもの保護区を含む熱帯落葉樹林帯とトラの移動に不可欠な森林コリドーがトラを育てています。148.6kmという狭い保護区ではありますが、多くの魚類、30種の哺乳類160種の鳥類、26種の爬虫類、4種の両生類や無数の昆虫が生息している豊かな環境です。問題は保護区管理がきちんとできていなかったため、人間とトラとの軋轢から人も家畜も被害がひどいのです。

そこでJTEFはWTIと共に活動を開始しました。

### ● 住民参加の軋轢対応チーム結成

名誉保護区長であるラムザン・ピラニ博士と共に12の軋轢が起きやすい村の住民と定期的に会合を開き、軋轢予防のための戦略会議を持ちました。トラやヒョウ、ナマケグマによる人への脅威を軽減し、人との軋轢による野生生物の死亡率を下げることを目的に、村の若者たちがパトロールを開始し自分たちのティベシュワールを守る責任感を持つようになりました。



### ● 森林局の最前線森林スタッフのサポート

森林局の職員は緊急事態に対処するために必要な技術的、財政的基盤が不足していたので、名誉保護区長と協力し、野生生物犯罪捜査、インドの野生生物法、生態学的モニタリング、動物救護活動技術などのトピックに焦点をあてた2日間のトレーニングワークショップを開催しました。



Pugmarks of Tiger cubs in Tivshwar WLS (Source: Sanctuary Asia)

### ● 開発の規制

マハラシュトラ州政府森林局はWTIの提言を踏まえ、ラムザン・ピラニ博士を含む専門家集団を構成し、生態学的に配慮すべき区域を決め、その中では碎石場、製材工場、鉱業など全ての汚染源を閉鎖または規制して野生生物の生息環境の安全を図ることになりました。

### ● 自然ガイドトレーニング

この保護区に定住するトラも確認されており、多くの観光客がこの辺鄙な保護区を訪れています。そこで森林局が任命した自然ガイドがより多くの収入になり、自然環境や保全活動をより深く理解しエコツーリズムの質を高めることができるようにと、3月に2日間のトレーニングワークショップを開催しました。これには32名のガイドが参加しました。WTIのチームメンバーは、動物の痕跡、保護地域の重要性、地域社会にどう役立っているかをフィールドで確認しました。JTEFからは参加者全員にリュックサック、Tシャツ、水筒、キャップ、靴を含むフィールドキットを提供しました。



## うえのトラ大使 出張授業と卒業式

「うえのトラ大使」、上野動物園とともに、トラの保全をテーマに出張授業を行いました。(2018.1/20 台東区立上野小学校 2018.2/26 台東区立忍岡小学校)

3月11日に「うえのトラ大使」第2期生最後のワークショップと卒業式を上野動物園で行いました。トラを守るために、周りの人たちにしたいこと、して欲しくないことをメッセージボードに書いてビデオ撮影。「地球が人間を中心に回っていると思わないでください。」というメッセージも。



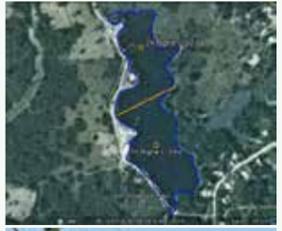
# ゾウ保護基金

## 北東インド・アジアゾウ保全プロジェクト

現地パートナー：  
インド野生生物トラスト(WTI)

### ● 村人たちとゾウが共存する「地域社会保全地域」をめざす新しいプロジェクトです。

チントン湖は小さな湖(5ヘクタール)ですが、周囲の小さな流れが集中して流れ込むようになっており、この地域の重要な水系をなしています。雨の少ない冬季でも水量が極端に減ることはありません。アジアゾウをはじめ野生動物が水を飲み、また日陰で体を休めに訪れます。7,000羽以下ともいわれる希少種のコハゲコウも魚をついばんでいます。また、多様な渡り鳥が渡来し、淡水生のカメも多様です。同時に、この湖は周囲の3つの村に、豊富な漁獲をもたらし、日常の食を支え、現金収入源ともなっています。そこで、3つの村と話し合い、この湖一帯を長期的に保全していくため、「地域社会保全地域」に指定するようアッサム州森林局に求めることにしました。



チントン湖(上) チントン湖のコハゲコウ(下)

### ● チントン湖岸に豊かな樹林帯を

チントン湖の環境の具体的な保全策として、湖周辺に在来の果樹と薬用植物の植栽を進めています。湖岸の樹林帯は、湖への土壌流出の防止、村人たちの果樹や薬草の利用に役にたつだけでなく、野生動物の隠れ場所や営巣場所を提供することにもなります。



## 象牙市場閉鎖プロジェクト

### ● イトーヨーカドーが象牙製品の販売禁止

3月3日の「世界野生生物の日」(2013年の国際連合総会で指定)、トラ・ゾウ保護基金ほか以下の5団体で、象牙印を取り扱う事業者・関係団体に、「象牙印章の取扱いの停止」を要望しました。その中で、イトーヨーカドーから、2020年までに象牙製品の販売を停止するという回答が寄せられました。国際的な視点から、企業の社会的責任を果たす立派な決断です。



### ● ワシントン条約第69回常設委員会

2017年11~12月のワシントン条約常設委員会(ジュネーブ・スイス)で、象牙行動計画の策定を求めるアフリカ諸国やJTEFと、日本政府が対立しました。最終的には、日本に管理の成果を次回委員会に報告させるということで決着しました。

### ● ワシントン条約第70回常設委員会

注目は、締約国が、日本を名指しで批判するかどうかでした。常設委員国であるニジェールが発言、ある国(例えば中国)が国内取引を禁止した場合、象牙市場が隣国(例えば日本)に移動するという専門家の報告書を紹介、国内象牙市場を閉鎖していないEUと日本はただちに市場を閉鎖すべきであると求めました。JTEFも9つのNGOを代表して意見を述べました。



### ● JTEFが協力する米国のNGOであるEIAが、トラゾウ事務局で記者会見(10月1日)

調査した象牙印を売っている303のハンコ店中、175店が、顧客が海外へ象牙のハンコを持ち出すこと(違法行為)を知りながら販売しようとしていたことを明らかにしました。



# イリオモテヤマネコ保護基金

## イリオモテヤマネコの生息地保全

IUCNに提出した報告書の第2弾

IUCN(国際自然保護連合)に、西表島の観光利用の問題点に関する報告書「西表島で導入されるべき包括的な観光利用の管理について」を提出しました。エコツアー客の増加、西表島に放射状に広がる小河川の生態系への入り込みの実態、観光客増加によるヤマネコの人馴れと路上出没の増加などについて指摘。西表島で観光利用をコントロールするルールの実施の重要性について提言を行いました。



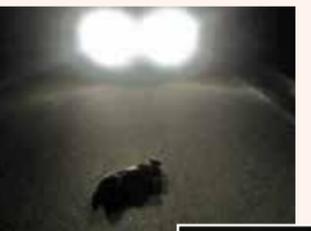
西表島で導入されるべき包括的な観光利用の管理について  
2017年11月  
IUCN NPO法人、トラ・ゾウ保護基金(JTEF)  
JTEF 西表島支部 事務局(石垣市)



西表島の玄関口である石垣港に停泊する大型クルーズ船と、次々と上陸するインバウンド客

## 交通事故防止対策

2017年はヤマネコの事故が3件、うち2件で死亡が確認されました。2018年は、9月までで既に6件(過去最多は2016年の7件)、うち5件で死亡が確認される事態となっています。JTEF西表島支部やまねこパトロールが通年で夜間パトロールを行っており、自動車の速度は昨年と比べて早くなってはいません。しかし、同じと思われるヤマネコの路上への連続出没が目立っており、ヤマネコの人馴れ・道路馴れの影響が心配です。



夜間パトロール中に発見したヤマネコの亡きがら(9月)



ヤシガニが車に惹かれないよう、道路の外へ追いやる

## ヤマネコのいる暮らしプロジェクト

西表島の小中学校教員向け研修会を、2日間にわたり、西表島東部と西部で開催しました。8月25日(東部)に7人、26日(西部)に6人の先生が参加されました。フィールドワークと、イリオモテヤマネコをキーワードに、西表島の自然との共存を考える授業づくりのワークショップを行いました。



## イリオモテヤマネコの日イベント

4月15日の第3回「イリオモテヤマネコの日」に、シンポジウム「世界自然遺産登録：屋久島の教訓と西表島へのメッセージ」を開催(西表島西部：わいわいホール)、屋久島でウミガメが産卵に訪れる海浜の保全活動に取り組む大牟田一美さんと、ヤマネコパトロールの高山が対談しました。その中で、屋久島の経験から、観光客の総量規制=各フィールドでの立入制限+島自体への入島制限を早い段階で実施することの必要性が明らかになりました。



また、ヤマネコの日から2週間、石垣港でイリオモテヤマネコの交通事故防止のため、注意を呼び掛けるパネル展示も開催しました。



## 2017年度にJTEFが行った支援



・中央インド・トラ保全プロジェクト	3万5,000ドル (内2万ドル 2016年度の延期分)
・トラ緊急支援金	なし
・北東インド・アジアゾウ保全プロジェクト	2万ドル
・ゾウ緊急支援金	なし
・イリオモテヤマネコ生息地保全プロジェクト	¥513,555
・交通事故防止対策(西表島支所やまねこパトロール) (2018年10月17日時点)	¥1,037,111
・ヤマネコのいるくらし授業プロジェクト(2018年10月17日時点)	¥687,903
・イリオモテヤマネコの日事業/ JTEF西表島支所「やまねこパトロール」運営 (2018年10月17日時点)	¥3,502,445
・教育普及事業(うへのトラ大使など) 政策提言事業(国内象牙市場閉鎖など) (2018年10月17日時点)	¥4,370,180

\* JTEFは、個人サポーターの方々からのご寄付の他、チャリティー・イベントでのご寄付、法人・団体からのご寄付、助成金で運営されています。

\* 最終的な決算(2017年11月1日～2018年10月31日)の内容は、2019年2月発行予定の「年次報告書」(トラ、ゾウ、ヤマネコ、JTEF全体の4種)でご報告します。

### 【JTEFの賛同者】

相澤登喜恵さん(動物肖像画家)、新井晴みさん(俳優)、安藤元一さん(ヤマザキ学園大学名誉教授)、池田卓さん(シンガーソングライター)、井上奈奈さん(現代アーティスト)、岩田好宏さん(子どもと自然学会顧問)、牛越峰統さん(一般社団法人 日本プロサーフィン連盟名誉顧問)、大森享さん(北海道教育大学教授)、岡田彰布さん(野球評論家)、小川潔さん(東京学芸大学名誉教授)、加藤登紀子さん(シンガーソングライター)、蟹江杏さん(版画家)、見城美枝子さん(青森大学副学長・エッセイスト)、巨勢典子さん(作曲家・ピアニスト)、小林裕児さん(画家)、権藤真禎さん(社団法人 兵庫県自然保護協会理事長・元神戸市立王子動物園園長)、坂本美雨さん(ミュージシャン)、沢田研二さん(歌手)、瀬木貴将さん(ミュージシャン)、田中豊美さん(動物画家)、田中裕子さん(俳優)、田畑直樹さん(葛西臨海水族園園長)、土居利光さん(前恩賜上野動物園園長・日本パンダ保護協会会長)、並木美砂子さん(帝京科学大学教授)、根本美緒さん(フリーキャスター・天気予報士)、南め風人まーちゃんうーぼーさん(三線アーティスト)、ヒサクニヒコさん(漫画家)、平岩弓枝さん(作家)、福井崇人さん(2025PROJECT 理事)、福田豊さん(恩賜上野動物園園長)、藤木勇人(志いさー)さん(作家)、古沢広祐さん(國學院大学教授)、前川貴行さん(動物写真家)、松田陽子さん(シンガーソングライター)、水野雅弘さん(株式会社TREE 代表・プロデューサー)、三石初雄さん(帝京大学専門職大学院教授)、宮下実さん(ときわ動物園園長・元近畿大学教授・大阪市天王寺動物園名誉園長)、村田浩一さん(元日本大学生物資源科学部教授)、森川純さん(酪農学園大学名誉教授)、八千草薫さん(俳優)、山極壽一さん(京都大学総長/進化論・生態学・環境生物学・動物学)、山崎薫さん(学校法人ヤマザキ学園理事長)、吉野信さん(動物自然写真家)、渡辺貞夫さん(ミュージシャン) 50音順 敬称略



## JTEFが開催・参加した イベント・ハイライト



### ▶ 2017.12/5~27

田中豊美(野生動物生態画家) 展覧会(渋谷・表参道間のペーカリー「パン・オ・スリール」にて)開催。9日には、象のUNKO elephant paper とコラボでワークショップも開催。



### ▶ 2018.1/6~8

上野公園「こんにちは! シャンシャンまつり」で、象牙のハンコ利用をなくすためにハンコで署名するキャンペーンを実施。



### ▶ 2018.2/10

チーム「やまねこパトロール」が交通事故ZEROを訴えて「竹富町やまねこマラソン」を走りました。スタート地点前にはヤマネコの写真パネルも設置。



### ▶ 2018.2/23

「どうとの約束 瀬木貴将チャリティーライブ」を開催(事務局)。ケーナ、サンポーニャの第一人者でJTEF野生動物親善大使の瀬木さんが、毎年訪れるアフリカの野生動物への想いを、情感溢れる演奏とともに。



### ▶ 2018.4/15

イリオモテヤマネコの日。西表島東部で、ヤマネコ発見の地のモニュメント除幕式開催。53年前、動物文学作家の戸川幸夫が島を訪れた時、当時の中学生達が提供した全身骨格が、ヤマネコのパラタイプ標本となったのです。



### ▶ 2018.4/21,24

今年のアースデイ(代々木公園)は、JTEFとアフリカゾウの涙がブースをつなげ、象牙のハンコはいらない!! と強力にアピール。



### ▶ 2018.6/30

シナリオ朗読とゾウ保護のユニークなコラボ!(事務局) 新井晴みさん迫真のシナリオ朗読は、第2次大戦中のユダヤ少女エリカのお話。理由なき虐殺にさらされる声なき者の物語はゾウの現状もほうふつとさせます。象牙目的の密猟からゾウを守るキャンペーンもご紹介。



### ▶ 2018.8/12

世界ゾウの日に上野動物園でブース出展



### ▶ 2018.9/29,30

ナマステ・インディア(代々木公園)でブース出展



### ▶ 2018.10/6

ゾウとサイを守るグローバルマーチに参加(上野公園。主催:アフリカゾウの涙)。



### ▶ 2018.10/13

「ディワリ イン 横浜」(山下公園)にブース出展。地球の宝物:インドのトラとゾウを守ろう!!



認定NPO法人 <http://www.jtef.jp/>  
トラ・ゾウ保護基金

〒105-0001 東京都港区虎ノ門 2-5-4 末広ビル 3F  
Tel : 03-3595-8088 Fax : 03-3595-8090  
E-mail : hogokikin@jtef.jp <http://www.jtef.jp>  
郵便振替口座: ゆうちょ銀行 口座番号)00170-7-355897  
加入者名)トラ・ゾウ保護基金

保護基金通信 期末特別号  
トラ保護基金 vol.32 / ゾウ保護基金 vol.29  
イリオモテヤマネコ保護基金 vol.18  
2018年10月31日発行  
発行人: 戸川久美 編集: 坂元雅行  
デザイン: 土肥優子

・再生紙を使用しています・